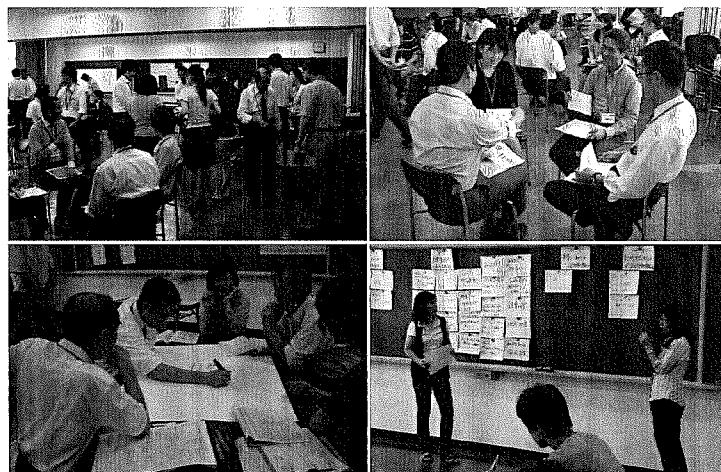


京都市 平成 23 年度 事業者向け環境学習セミナー

報告書



平成 23 年 9 月

目次

- 1 事業の目的
 - 2 事業主体
 - 3 スタッフ
 - 4 広報・事業実施の周知
 - 5 受講申込受付期間・受付方法
 - 6 開催日時
 - 7 会場
 - 8 受講者
 - 9 セミナー実施状況
- 第1回「環境問題とこれからの企業活動のあり方を考える」
- 第2回「事業所の環境への取り組み あれこれを聞く」
- 第3回「環境への取り組みの現場を見てみる」(施設見学会：中止)
- 第4回「私の事業所での環境の取り組みを考える 1」
- 第5回「私の事業所での環境の取り組みを考える 2」
- 10 アンケート結果
 - 11 総括
-

1 事業の目的

京都市では、事業者における環境教育を支援することを目的として、事業所内で環境保全の取組を推進する核となる環境リーダーを養成することを目指し、ワークショップを取り入れたセミナーを実施している。

本セミナーは連続セミナー形式により、地球温暖化防止をはじめとする環境保全活動のノウハウ等を学ぶとともに、事業所の異なる環境担当者間の情報交流を促し、相互のネットワークづくりを目指す。

2 事業主体

(1) 主催

- ・京都市（環境政策局地球温暖化対策室）

(2) 共催

- ・京都商工会議所
- ・社団法人京都工業会
- ・特定非営利活動法人 KES 環境機構
- ・京のアジェンダ 21 フォーラム
- ・財団法人京都高度技術研究所（京都市中小企業支援センター）

3 スタッフ

(1) コーディネーター

- ・岩木啓子氏（ライフデザイン研究所 FLAP）

(2) 事務局

ア 京都市環境政策局地球温暖化対策室（中山雅永・杉本憲二・市川貴之）

イ 京のアジェンダ 21 フォーラム（井上和彦・奥井祐子）

ウ 株式会社教材研究所（水口保・五島玲子）

4 広報・事業実施の周知

(1) チラシ周知

チラシ配架場所

- ・本庁、京都商工会議所、京都工業会、中小企業支援センター、KES、京都府中小企業団体中央会 他

(2) メールマガジン

- ・「KES 俱楽部通信」(KES 俱楽部メールニュース)
- ・「京都商工会議所メールマガジン」
- ・京都府中小企業団体中央会、京都工業会

5 受講申込受付期間・受付方法

- ・平成 23 年 5 月 11 日～6 月 3 日（金）
- ・メールまたは FAX による申込書で受付（環境政策局地球温暖化対策室）

6 開催日時

- ・第 1 回：平成 23 年 6 月 9 日（木）13 時 30 分～16 時 30 分
- ・第 2 回：平成 23 年 6 月 17 日（金）13 時 30 分～16 時 30 分
- ・第 3 回：平成 23 年 7 月 20 日（水）台風接近による災害防止のため中止
- ・第 4 回：平成 23 年 7 月 27 日（水）13 時 30 分～16 時 30 分
- ・第 5 回：平成 23 年 8 月 4 日（木）13 時 30 分～16 時 30 分

7 会場

- ・京都商工会議所教室（第 1 回・第 2 回・第 4 回・第 5 回）

8 受講者

受講者数 37 名

- ・第 1 回：33 名
- ・第 2 回：33 名
- ・第 4 回：31 名
- ・第 5 回：30 名

セミナー修了証書交付者数：28 名

環境担当者育成推進事業所数：25 事業所

9 セミナー実施状況

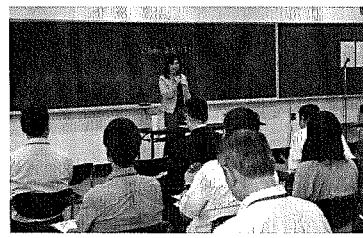
■第 1 回「環境問題とこれからの企業活動のあり方を考える」

(1) 開講挨拶

京都市環境政策局地球温暖化対策室 中山課長



▲あいさつする中山課長



▲コーディネーターの岩木啓子氏



▲グループに分かれて意見交換

(2) オリエンテーション

コーディネーター自己紹介のあと、本セミナーのねらいについて説明。まず環境問題を取りまく社会情勢から業界や各企業の置かれている状況について「理解し」、次に他社の取り組み事例など改善への方法論について「探り」、最後に自社のこれから取り組みに対して「やる気になる」ことが大事、ということを説明した。

その後、セミナーの進め方・全体のスケジュール・本日のスケジュールを確認し、「主体的に関わる」「遊び心を大切にする」「互いに刺激し合い学び合う」という心構えについて共通理解を得た。

(3) アイスブレーキング

本セミナーに参加した受講者に対して年齢層・業種などを質問する「国勢調査」というゲームを利用して、どんな人たちが参加しているかという理解を深めた。

(4) セッション1（全体ワーク）：「企業の環境活動　これまで・これから」

4人ずつのグループを作って着席。コーディネーターの質問に対する答えをA5用紙に記入し、グループ内で意見交換したうえで代表が全体発表するという手順を、8つの質問に対して繰り返した。8つの質問は以下の通り。

- ①今の気分は？ ②自分は一見○○、実は○○ ③環境問題について一番関心があることは？
- ④環境問題の解決を阻むものは？ ⑤環境問題の解決に向けて企業の果たすべき役割は？ ⑥自分の事業所でやれていること・やれていないこと ⑦環境に配慮した企業になるにあたっての阻害要因（ハードル）は？ ⑧ディスカッションしての感想は？

(5) まとめ

ア：環境問題の本質

イ：環境のための企業行動が求められる背景

ウ：企業の環境活動の4つのカテゴリー

ア・イについては、「背景」「環境省 平成20年度 環境にやさしい企業行動調査」「京都市内事業所の環境活動と意識調査」の3枚のペーパーにまとめ、参加各社の社内プレゼン資料として活用できるよう配慮した。

ウの「4つのカテゴリー」は以下の通り。

タイプ1：本業そのものにおける環境活動の取組

タイプ2：日常業務運営における環境活動の取組

タイプ3：本業を活かしたCSR的取組

タイプ4：地域市民としてのCSR的取組

最後に、「各事業所での取り組みシート」フォーマットを配布し、次回までに記入して提出するよう要請。回収したシートをコピーして、第4回セミナー時に配布した。他社の取り組み事例集として活用できる資料となった。

■第2回「事業所の環境への取り組み こんなんです」

(1) オリエンテーション

第1回で説明した本セミナーの「ねらい／進め方／スケジュール／心がまえ」について確認し、参加者の意識を高めた。

(2) セッション1（事例発表）：「私たちの取り組み、あれこれを聞く」

ア 小山祥明氏（宮井株式会社）

「本業そのものが環境活動につながる取組」

風呂敷・袱紗・和装小物製造卸売業として100年以上の歴史を持つ同社では、ごみの分別やエネルギー使用量の削減などの環境活動のほか、本業であるふろしき自体が環境負荷の軽減に役立つことから、ふろしきの普及活動を積極的に行っている。

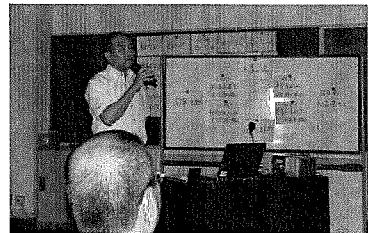


▲小山祥明氏

イ 大槻享氏（大槻工業株式会社）

「日常業務運営における環境活動の取組」

プラスチック素材へのコーティング加工を行う同社は、KESの運用を通じて社員一人ひとりの環境問題に対する感性を養う活動を続けている。グループ活動を通じて互いに競い合いながら全員参加を促す手法で、STEP2にランクアップして、意識のさらなる向上をめざしている。



▲大槻享氏

ウ 福田雅則氏（株式会社ホテルグランヴィア京都）

「ホテルグランヴィア京都の環境への取組について」

環境にやさしいホテルをめざして、化学物質削減・節水省エネルギー・グリーン購入・廃棄物の削減等に取り組む。日本を代表する観光地京都に立地するホテルとして、宿泊ゲスト参加型の環境への取組は、波及効果が大きいと、期待されている。



▲福田雅則氏

エ 村田賢蔵氏（(財)関西電気保安協会 京都支部）

「私の事業所の環境への取組」

電気設備の安全診断や保安業務を行う同社では、自社の電力や水道使用量の削減に取り組むだけではなく、顧客への電力使用削減の提案や事業所周辺の清掃活動など、本業を生かしながら地域社会へのCSR的取組を行っている。



▲村田賢蔵氏

オ 井田玉枝氏（特定非営利活動法人 KES 環境機構理事・主幹審査員）

「KES 環境マネジメントシステムの概要」

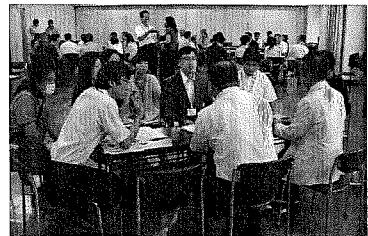
KES 誕生の経緯や現在の登録状況と全国展開、KES の企画等について概説したあと、環境経営の実際と重要ポイントや取組事例等、具体的な例を挙げて紹介した。特に「取得 9 年目の企業の活動事例」は、目標が達成されて頭打ちとなり、マンネリ化も懸念されるなかでの環境活動に関する事例で、非常に参考になったと好評であった。

(3) セッション 2 (Q&A)：「取り組みについてさらに聞いてみよう！」

事例発表した 4 企業のコーナーを設置し、参加者がより詳しく話を聞いてみたい事例発表者に、自由に質疑応答や意見交換ができる形式とした。参加者の現実的な関心事である環境活動の展開に関する質問をはじめ、熱心な討議が諸所で展開された。



▲井田玉枝氏



▲4つのコーナーでの活発な意見交換

(4) ふりかえり&わかちあい

本日のセミナーを「ふりかえりシート」に記入して整理するとともに、感想を発表し合って、異なる観点からの知見を交換した。

■第 3 回「施設見学会：光アスコン株式会社」

- 台風接近が予想され、災害防止のため中止した。

■第 4 回「私の事業所での環境への取り組みを考える 1」

(1) オリエンテーション

前回同様、第 1 回で説明した本セミナーの「ねらい / 進め方 / スケジュール / 心がまえ」について確認し、参加者の意識を高めた。

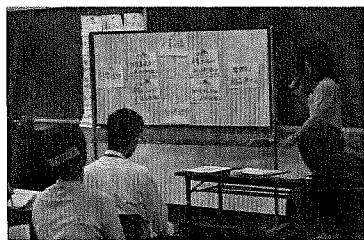
(2) セッション 1 (講義)：「企画立案の考え方」

「予見の整理」「思いの整理」という前提条件を確認したうえで、マーケティング（テーマを取り巻く社会や対象者の状況）及びポテンシャル（企画運営する側やフィールドの強み・弱み）の情報を収集し、分析して企画を構想していく。そのプロセスは、背景・目的・目標等「企画意図の明確化」→コンセプト・要項・具体案等「内容の項目出し」→予算・スケジュール等「実施計画の策定」であり、コンセプトを明確にしたうえで具体的な企画を構築していくことの重要性を強調した。

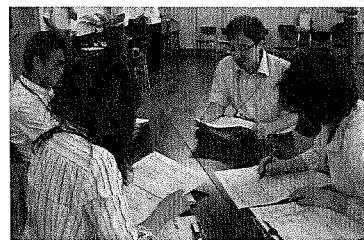
(3) グループ分け

- 各事業所における取組を、第 2 回で説明した 4 つのカテゴリーによって分類し、グループを作った。

- 企画の方向性が近い企業同士で、具体性のあるディスカッションができるよう企図した。



▲企画立案のプロセスを整理



▲グループで討議する参加者



▲マッピングで発想を広げる

(4) セッション2（グループワーク）

第2回で回収した各事業所での取り組みシートを冊子化したものを使って、各グループで自社の取り組みについて情報交換した。

(5) セッション3（グループワーク）：「取り組みの方向性を探ろう！」

グループごとに模造紙を配り、マッピングという手法を使って環境活動への方向性を探った。これは、いろいろな視点から意見を出し合い、枝を伸ばすように発想を展開しながら記録していく手法で、議論が煮詰まったときには「なぜ？」「どうして？」「ホントに？」と問い合わせながら、発想をどんどん広げていった。

(6) ふりかえり&わかちあい

本日のセミナーを「ふりかえりシート」に記入して整理するとともに、感想を発表し合って、異なる観点からの知見を交換した。

■第5回「私の事業所での環境への取り組みを考える 2」

(1) オリエンテーション

今回も、第1回で説明した本セミナーの「ねらい／進め方／スケジュール／心がまえ」について確認し、参加者の意識を高めた。

(2) セッション1（グループワーク）：

「取り組みの具体策を考えよう！」

前回のグループでの話し合いを継続し、可能な限り具体的なアイデアレベルまで議論を深めた。

(3) セッション2（発表&意見交換）

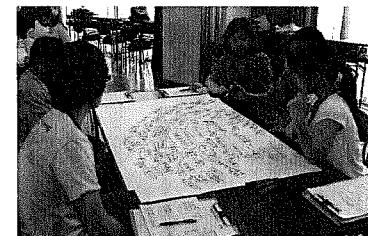
グループごとに話し合った内容や環境活動のアイデアを発表したあと、全体で意見交換を行った。

(4) ふりかえり&わかちあい

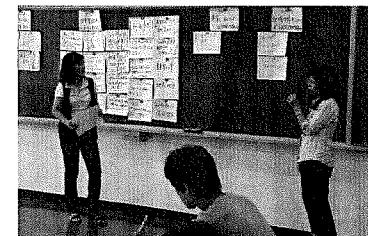
セミナー全体を通して各自で振り返り、感想や取り組みの方向性などをシートに記入。カテゴリーごとに分類して掲示し、感想を共有した。

(5) 修了証書及び認定書の授与

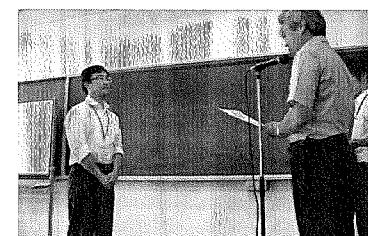
施設見学会を中止としたため、それをのぞく4回のセミナーの日程に参加した受講者に修了証書を、その受講者の所属企業に対して認定書を授与した。



▲グループで討議をさらに深める



▲グループごとに発表会



▲修了証書及び認定書授与式



▲参加者全員で記念写真

10 アンケート結果（一部抜粋）

(1) 第1回セミナーについて（6月9日（木）商工会議所にて開催）

- ・他の方が率直にどのような意見をもっているのかを知ることができた。
- ・連続セミナーを通して、コーディネーターの方が参加者が緊張しないような接し方をされていたので良かった

(2) 第2回セミナーについて（6月17日（金）商工会議所にて開催）

- ・事業者（経営者）の方から、生の声が聞けて良かった。
- ・事例紹介のときでは聞きづらいところもあったが、ここを聞いてみようと思った企業さんへ質問できたことは良かった。
- ・新しい取り組みが出てこなかったのが残念だった。
- ・CSRの本質をより深く理解したいと感じた。

(3) 第4回セミナーについて（7月27日（水）商工会議所にて開催）

- ・マッピングという方法を初めてやって、面白かった。
- ・ただ単に企画すればよいというわけではなく、どのような資料が必要かなど、環境以外の場面でも役に立つと思った。
- ・各々わかっている事柄をピックアップして用紙に書いていたが、講師の指摘で少しひっかかるていたこと、わからないことまで用紙に書いていったことで大きな発見ができた。
- ・斬新なアイデアによる取り組みが見られず、取り組み基本事項に変わりがみられなかった。
- ・同じテーマを業界の異なる方々と意見交換ができ、とても貴重な時間となった。
- ・皆さんの意見を聞き、自分の立ち位置の再認識ができた。
- ・マッピングという方法を初めて利用したが、後から見ても、話の流れがわかるという点で良かった。
- ・アイデアを出し合えたことが良かった。
- ・他社で実行されていることで、まだ自社がしていないことは参考にできる。参考書のかわ

りとなる貴重な資料だと思った。

- ・皆さん環境意識が高いと感じたが、そう思うことも含めてマッピングを実感できたのは良かった。

(5) 第5回セミナーについて（8月4日（木）商工会議所にて開催）

- ・第4回でまとまらなかったものがまとまってきて、進んできていることを実感した。
- ・最終日、顔見知りになっていたこともあって意見が出やすくなっていた。
- ・色々なチームの意見が聞けて良かった。
- ・色々な事業所で個人個人が考えることで一つにはまとまらなかったが、もう少し入れれば面白いものができそうで、楽しかった。

(6) セミナー全体の印象について

- ・他業種、他社とのコミュニケーションを深められ、環境だけでなくCSRについての取り組み等を知ることができ、とても参考になった。
- ・初回からすぐにテーマに入るのではなく順を追って理解しながら進んでいくことができたので良かった。
- ・流れとして非常にスムーズで、KESを初め環境への取り組み意識は向上した。ただ、間が空いてしまったことが若干の不満。
- ・特段に新しい活動や情報を得ることが少なく、今後の活動の参考にと期待した部分は不満が残る。
- ・製造業、あるいは今まで環境に関するアピールがあまり聞かれなかった所からの「意外な取り組み」が知りたい。

(7) 全5回のセミナーの進め方について

- ・4回を通じてストーリーが完成されていく展開が良かった。
- ・企画立案の進め方として楽しく疑似体験できたのではと思う。ただ、4回目と5回目に際しては4回目から具体的なアイデアを意識させるほうがいいと思う。
- ・どんなことでも意見が出たものを書いていくと後で整理できて、見えてくるものがあった。また、前回と同じグループだったので、同じテーマを広げることができた。
- ・まず一通り知識を得て、それを本業など身近なところに結び付けるということがスムーズにでき、また他の参加者の方のご意見も参考になった。

(8) その他連続セミナーへの御意見について

- ・現実的にどのようなことを実施しているかを聞くことができ、良かったと思う。環境改善のため、仕事を離れても身の回りでなにか続けられることを見つけていこうと思った。
- ・異業種の方々ばかりで環境という1つのテーマで同じ目線を共感できたことと、講師の先生の進め方もよく、特に最後の即答フリップ方式は面白かった。
- ・このセミナーを申込むときは行きたくないけど、自分のためになるからと言い聞かせて申込んだ。でも受講したら、次の受講が待ち遠しい自分がいた。楽しく学べた。
- ・参加企業は業種・規模も様々であったため、環境学習の導入としては良いセミナーであったと思うが、規模によって環境に対する社会的責任の大きさも異なるくるかと思うので、

企業間の実際の取り組みの情報交換のために、業種や規模が同じような企業との勉強会を開催してもらえばと思う。

- ・施設見学をしたかった。
- ・中止になった施設見学会をやって欲しい。その後、セミナーを受けて取り組んでみたことなどを話し合って発表する形式がよいのでは。
- ・環境活動に携わる、別の社員に参加させたい。
- ・同じ内容の場合は不参加。ただし、施設見学会ができなかったため、見学会は希望参加したい。

11 総 括

コーディネーターとしてライフデザイン研究所 FLAP の岩木啓子氏をお招きし、事業所における環境教育を支援することを目的として、事業所内で環境保全の取り組みを推進する核となる環境リーダーを養成することを目指し、事業者向け環境学習セミナーを実施した。

セミナーは 5 回連続セミナー形式で、環境活動に取り組まれている事業所の活動事例紹介や施設の見学、環境保全についての受講者間での意見交換、課題解決へのアプローチを学ぶグループワークなどをプログラムに組み込んだ。受講者には他事業所における多様な環境に関する取組の実践例を学んでいただき、率直な意見交換を通じて、事業活動における省エネの取組や事業所の環境活動等について検討し、互いに環境保全意識を高める良い機会となった。

第 1 回セミナーで作成した「各事業所での取組シート」では、それぞれの事業所において取り組まれている目標や方法、工夫などについて活発な意見交換を行った。第 2 回セミナーでは環境保全活動を①本業そのものが環境活動につながる取組 ②日常業務運営における環境活動の取組 ③本業を活かした CSR 的環境活動の取組 ④地域市民、企業市民としての CSR 的環境活動の取組 の 4 つのカテゴリーに分け、それぞれのカテゴリーに該当する取組を積極的に行っている事業所の担当者をお招きし、具体的な取組内容や苦労話、やりがい等について事例発表を交えて講演いただいた。講演の後には、企業ごとにブースを設置し、受講者がブース間を自由に動いて質問や議論を行う機会を設けた。第 4・5 回セミナーではこれまでの他事業所における取組事例や意見交換を参考にして、第 2 回セミナーと同様に環境保全活動の 4 つのカテゴリーに応じて受講者をグループ分けした。グループ内では企画立案の手法を踏まえ、マッピングという手法を用いて意見を引き出し、取りまとめを行った。各グループでまとめた意見をそれぞれ発表することで、全体としても様々な意見交換をすることができた。第 1 回セミナーから第 5 回セミナーまでの一連の流れについてはセミナー終了後に行ったアンケートでも好評を得ることができた。

また、第 3 回には施設見学として産業廃棄物の中間処理施設や固形燃料化施設の見学を行う予定であったが、台風接近による災害防止のため残念ながら中止となってしまったが、アンケートでは施設見学会の中止を惜しむ声も数多くいただき、来年以降も引き続き施設見学会の開催を予定する。

一方、グループワークについては、多岐にわたる業種の事業者が参加し、意見交換を行った

ことに対して「様々な企業での取り組み内容を知ることができた」や「同じテーマを業界の異なる方々と意見交換ができ、とても貴重な時間となった」という好意的な意見もあれば、「グループ内での話の取りまとめが難しいと感じた」や「各事業所の職種・規模および環境への取り組み度合いが異なるので致し方ないが、参加者の力量に差がありすぎる場合がある」などの意見も寄せられた。これらを反省材料として踏まえ、来年度に向けて、これまで以上に実りのある意見交換を行うことのできるセミナーとするために改善していくこととする。

また、今年度は年明けに今回のセミナーのフォローアップの開催を予定している。フォローアップでは、セミナーで学んだことを事業所に持ち帰った後、事業所内でどのようなことを実践したか、また、それによってどのような変化が生じたか等について意見交換を行い、改めてお互いの環境保全意識を高める場とする。今後多くの事業者の皆様で環境保全への取組について情報共有が進み、セミナー推進事業所の皆様を中心とした環境活動の広がりを生み出す場となるように、環境学習セミナーを実施していくこととする。

以上